

日清製粉グループ 第1四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

[2024年3月期第1四半期連結累計期間決算]

売上高	2,081億91百万円	(前年同期比110.0%)
営業利益	118億60百万円	(前年同期比133.9%)
経常利益	130億99百万円	(前年同期比132.1%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	87億42百万円	(前年同期比138.6%)

(株)日清製粉グループ本社(取締役社長:瀧原 賢二)の2024年3月期第1四半期連結累計期間につきましては、行動制限の解除に伴う人流の増加やインバウンドの回復等、景気は緩やかに回復しております。一方、ウクライナ情勢等の影響を受けた原材料価格やエネルギー価格の変動等、当社グループを取り巻く環境は依然として先行き不透明な状況が続いております。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、製粉事業における国内の麦価改定に伴う小麦粉価格改定の実施、熊本製粉株式会社の連結子会社化及び食品事業における加工食品事業等での製品価格改定の実施等により、2,081億91百万円(前年同期比110.0%)となりました。営業利益は、食品事業において医薬品原薬等の出荷減やインドイースト事業の立上げ費用の発生等があったものの、製粉事業において、国内における副産物のふすま販売価格の堅調な推移、豪州製粉事業の前期の減損損失計上に伴うのれん等の償却費の減少、中食・惣菜事業の堅調な業績等により、118億60百万円(前年同期比133.9%)、経常利益は、130億99百万円(前年同期比132.1%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、87億42百万円(前年同期比138.6%)となりました。

[2024年3月期通期連結業績予想]

当社グループは、小麦粉をはじめとする「食」の安定供給という社会的使命を果たすとともに、食の中心企業として成長を継続していくため、「日清製粉グループ 中期経営計画2026」で掲げた目標の達成に向けて、当期は、事業ポートフォリオの再構築によるグループ成長力の促進、食糧インフレへの対応、豪州製粉事業の業績回復、環境政策、デジタル戦略を最優先課題としてグループ一丸となって取り組んでまいります。

2024年3月期第2四半期(累計)及び通期の連結業績予想につきましては、2023年5月10日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向40%以上を基準として配当を行う基本方針のもと、当初の予想どおり、前期より1円増額の1株当たり年間41円を予定しております。

以上